

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	水路等浚渫事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	01	1節	整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	河川課			
施策	1-6	安全性と快適性を兼ね備えた河川・排水路整備		主管課長	池田 輝昭			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	準用河川や水路の沿線住民	意図	河川、水路等の堆積土砂等の浚渫を行い、治水機能を保持するとともに水辺環境を良好に保つ。
事業内容	準用河川、水路等の浚渫及び清掃を行うものである。			
事業開始から現在までの状況変化	当初は、蓋なし水路が多かったため、直接人力での作業が可能であったが、市街化に伴いユスリカや臭気対策として、蓋かけ構造の水路が増加した。 現在は、機械による吸引作業が中心となっている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	河川環境に関する苦情	10	13	22	箇所
②							
③							
④							
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果

目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
 苦情箇所については、早期に現場確認を行い、処理している。
 民家が少ない地域では、水路への不法投棄が多い。

事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	10,784,502	5,826,212	8,919,096
事業費(b)(円)	7,778,352	3,622,212	6,750,216
うち一般財源	7,778,352	3,622,212	6,750,216
職員給与費(c)(円)	3,006,150	2,204,000	2,168,880
人役・職員(人)	0.40	0.30	0.30
人役・再任用(人)	0.11	0.08	0.08
人役・臨職(人)			
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	<ul style="list-style-type: none"> 汚泥が堆積しやすい箇所や浸水対策の箇所を重点的に実施する。 不快虫の発生防止対策を行う。 	③取組における課題(Check)	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に堆積しやすい水路内の浚渫等を行う。 水路への不法投棄の防止を図る。
②H30に実施した取組(Do)	<ul style="list-style-type: none"> 浚渫、清掃を行い、水路機能と周辺環境の保全に努めた。 	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	<ul style="list-style-type: none"> 水路を適切な機能を保持するように維持管理する。 河川や水路のパトロールを実施し、不法投棄の防止を図る。